

学生版まちづくりチャレンジ協働事業報告書

事業対象団体名	私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える会		
学生版協働事業の名称	私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える（勉強会）		
実施期間	2021年9月15日から 2021年9月15日まで	実施場所	えにあす 2F 会議室8
事業の目的	ドナー移植における現状や課題の共有を図り、各種制度の重要性への理解を深めることを目的とした勉強会を開催。		
事業の実施状況	<p>事業名：私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える（勉強会） 日 時：2021年9月15日（水）18：00～19：15 場 所：緑と語らいの広場複合施設「えにあす」2階 会議室8 ※会場と、オンライン参加のハイブリット形式にて実施。 参加者：約75名（会場参加35名、オンライン参加40名） 主 催：私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える会 概 要：勉強会前半では、日本骨髄バンクの職員さんから、造血幹細胞移植等の概要とドナー登録者数の推移や、移植における課題の共有のほか、ドナー登録とドナー提供を支える環境づくりの重要性についてなどのご講演をいただき、次に、実際にドナー提供を経験された方から、ドナー移植までの流れについて、エピソードを交えながら、経験談を分かり易く丁寧にご講演いただきました。最後に、会場とオンライン参加の皆様からの質疑応答として、企業における「休暇制度」や、大学における「公欠制度」導入の必要性などについても意見交換が行われました。</p>		
事業による成果・効果	<p>本勉強会の（講師講演や質疑応答をとおして）、参加者の共通理解が深まり、学生などにも多く参加いただけたことから、多様な価値観を持つ多世代に対し、関心の輪を拡げる「きっかけづくり」がなされたものと考えます。 また、アンケート結果から、ドナー制度導入への重要性を認識する意識醸成にもつながったものと考えます。</p>		
次年度以降の事業の見通しと課題	<p>今後の展望としましては、関係各機関と連携しながら、各種啓発等による意識醸成や行動喚起に加え、それぞれの制度導入等に向けて、双方向での情報受発信と、働きかけを継続的に実施してまいります。</p>		

様式第14号（第10条関係）

学生版まちづくりチャレンジ協働事業補助金収支決算書

1 収入

(単位：円)

項目	金額		備考
	予算	決算	
交付金	25,000	25,000	学生版まちづくりチャレンジ協働事業
合計	25,000	25,000	

2 支出

(単位：円)

項目	金額		備考
	予算	決算	
講師謝金	10,000	0	講師からのご厚意（希望）で、謝金無し。
会場費	1,850	2,350	① えにあず会議室 8 (3h) ¥1,350 ② プロジェクター、音響レンタル ¥1,000
印刷費	3,500	1,500	③ チラシ、アンケート、次第印刷 ¥300 / ポスターA2版 1枚印刷 ¥200 / ポスターA4判 50枚印刷 ¥1,000 /
消耗品費	1,800	651	④ アルコール手指消毒液 ¥651 /
手数料	440	0	講師謝金振り込みがなくなったため。
通信費	168	188	⑤ 郵送代（講師礼状 2通送付）。
広報費	7,242	8,541	⑥ ラジオPR広告宣伝費 CM ¥776.5×10本=¥8,541（税込）。
事業費	0	11,770	⑦ ZOOM ウェビナー使用料 /
合計	25,000	25,000	

備考) 領収書の写しを添付。

事業名：私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える（勉強会）

日時：2021年9月15日（水）18:00～19:15

場所：緑と語らいの広場複合施設「えにあす」2階 会議室8

※会場と、オンライン参加のハイブリット形式にて実施。

参加者：約75名（会場参加25名、オンライン参加会37名、講師2名、メンバー11名）

主催：私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える会

背景：血液がんの治療法のひとつである造血幹細胞移植はドナー登録者と患者とのマッチングが成立しても、ドナー側の都合により移植手術に至らないケースが6割以上もある。現在（2021年9月時点）、全国775の自治体に、提供者であるドナーの善意を後押しする「骨髄ドナー助成制度」があるが、北海道内の自治体にはまだ無いことから、まずは、恵庭市での導入実現を目指す。

目的：ドナー移植における現状や課題の共有を図り、各種制度の重要性への理解を深めることを目的とした勉強会を開催。（学生版恵庭市まちづくりチャレンジ協働事業補助金を活用して実施。）

概要：勉強会前半では、公益財団法人日本骨髄バンクから、広報渉外部部長の小島勝さんより、造血幹細胞移植等の概要とドナーの提供方法、登録者数の推移や、移植コーディネートにおける課題の共有のほか、ドナー登録とドナー提供を支える環境づくり（各制度）の重要性についてなどのご講演をいただきました。

続いて、実際にドナー提供を経験された方などの体験談をお話いただく、「骨髄バンク草の根語りべ講演（派遣事業）」として、ジブラルタ生命保険㈱の河原田宏司様より、ドナー提供に至る背景や、ドナー登録から移植までの具体的な流れ、実際のエピソードを交えながら、家庭や職場の理解の重要性など、経験談を分かり易く丁寧にご講演いただきました。

後半では、会場とオンライン参加の皆様からの質疑応答として、企業における「休暇制度」や、大学における「公欠制度」導入の必要性などについても意見交換が行われました。

成果：本勉強会の（講師講演や質疑応答をとおして）、参加者の共通理解が深まり、学生などにも多く参加いただけたことから、多様な価値観を持つ多世代に対し、関心の輪を広げる「きっかけづくり」がなされたものと考えます。また、アンケート結果から、ドナー制度導入への重要性を認識する意識醸成にもつながったものと考えます。

講演録：ZOOM ウェビナーのクラウド上に保管（一般公開不可、関係者のみアクセス可）

広報：ポスター（A4 チラシ）作成後、市内を中心に50枚掲示のほか、会の公式 Facebook ページ立ち上げ。FM いーにわにて生パブリCM（有料）を放送。

各媒体に記事掲載（恵庭市広報9月号、市民活動センター情報9月号、

生活情報紙ちゃんと782号（9/3 発行）、北海道新聞取材記事（9/7、9/17）。

その他、9/9～ 7日間、恵庭市立図書館恵庭分館にご協力いただき、入口全面に、

各種パンフレットやポスター掲示に合わせ、関連本を貸出展示するコラボ企画を実施。

**私たちのまちで
骨髄ドナー助成制度を考える**

骨髄ドナーと患者を巻き込む現状や
課題と骨髄ドナー助成制度について演
講（オンライン）を行います。

日時 9月15日（水）18時～19時
会場 えにあす2階会議室8
定員 30人
講師 日本骨髄バンク派遣講師
その他 マスクの着用をお願いします
問合せ・申込先 私達のまちで骨髄ド
ナー助成制度を考える会（☎090-
8420-4063）

**骨髄ドナー助成制度を考える会
講演会 私たちのまちで骨髄ドナ
ー助成制度を考える**

骨髄ドナーと患者を取り巻く現状
や課題と骨髄ドナー助成制度につ
いてオンライン講演を行います。参
加無料、要申込。

日時 9月15日（水）18時～19時
会場 えにあす2階（厚岸市緑町2-1-1）
参加費 / 無料
持ち物 / マスク着用
問合せ・申込・電話 / 090-8426-
4063（三浦）

**骨髄ドナー助成制度を考える会
講演会 私たちのまちで骨髄ドナ
ー助成制度を考える**

骨髄ドナーと患者を取り巻く現状
や課題と骨髄ドナー助成制度につ
いてオンライン講演を行います。参
加無料、要申込。

日時 9月15日（水）18時～19時
会場 えにあす2階（厚岸市緑町2-1-1）
参加費 / 無料
持ち物 / マスク着用
問合せ・申込・電話 / 090-8426-
4063（三浦）

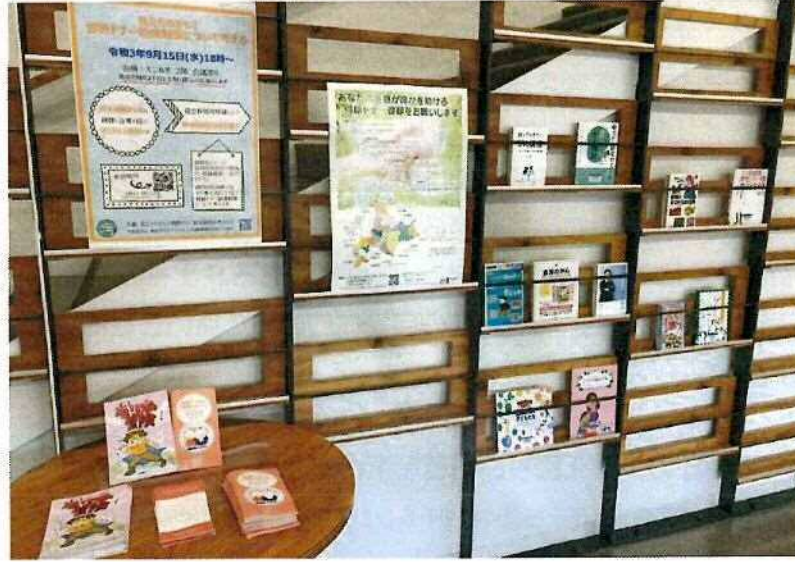
白血病から回復 FMいーにわの白崎さん

骨髄移植 理解深めて

「白血病から回復したFMいーにわの白崎さん」が、骨髄移植の大切さを伝える講演会を開催しました。講演会では、白崎さんの体験談や、骨髄移植の仕組み、骨髄ドナーの役割などについて詳しく説明されました。また、骨髄ドナー登録の重要性についても強調されました。

**ドナー助成制度要望へ「考える会」発足
自分にできることを」15日に勉強会**

骨髄ドナー登録の促進を目的に、骨髄ドナーと患者を取り巻く現状や課題を共有し、骨髄ドナー助成制度の導入を要望する「私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える会」が発足しました。発足式では、骨髄ドナーと患者を取り巻く現状や課題を共有し、骨髄ドナー助成制度の導入を要望する旨が述べられました。



●当日の様子（写真）



**私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える
2021年9月15日（水）18:00～19:00**

開始までしばらくお待ちください。
▶BGMを流していますので、音量の調整をおねがいいたします。
イヤホンをご利用いただくより快適に聴きいただけます。

ドナーを支える仕組み

ドナー休暇制度

ドナーが登録までに要する検査や登録・入院等の日数で、ドナー自身の有給休暇も使用するのではなく、勤務先がその代わり有給休暇として認められる制度です。現在、69%の企業・団体等がこの制度を取り入れています。

ドナー助成制度

骨髄バンクを介して骨髄ドナーまたは末梢血幹細胞を提供したドナーに対して、謝金金を支給する制度が広がっています。導入している市区町村は全国で749を超えています。

**職場の理解があり
休みを取りやすい**

**取入減を気にせず
仕事を休める**

ご挨拶

私たちのまちで骨髄ドナー助成制度を考える会
代表 白崎 亜紀子

④骨髄移植に必要だと感じたもの

1. 自分の理解と健康
2. 家族の理解
3. 会社（職場・同僚）の理解
 - ・ 通院（3～4回）、入院（4日）が必要
 - ・ 会社の「ドナー休暇制度」で安心して休める
 - ・ 上司からは一言：「しっかりやってください」
4. +経済的な安心感
 - ・ ドナーは健康診断や入院・手術の費用はかからない
 - ・ 自治体の「骨髄移植ドナー支援事業」（1日2万円）
⇒ドナー登録、骨髄移植の後押しになると感じた

●経費（収支決算書）

収入

項目	予算	決算	差異	備考
まちチャレ 交付金	25,000	25,000	0	恵庭市学生版まちづくりチャレンジ協働事業 (補助金)
収入計	25,000	25,000	0	

支出

項目	予算	決算	差異	備考
講師謝金	10,000	0	△10,000	講師からのご厚意(希望)で、謝金無し。
会場費	1,850	2,350	500	① えにあず会議室8(3h) ¥1,350 ② プロジェクター、音響レンタル¥1,000
印刷費	3,500	1,500	△2,000	③ チラシ、アンケート、次第印刷 ¥300 ポスター-A2版 1枚印刷 ¥200 ポスター-A4判 50枚印刷 ¥1,000
消耗品費	1,800	651	△1,149	④ アルコール手指消毒液¥651
手数料	440	0	△440	講師謝金振り込みがなくなったため。
通信費	168	188	20	⑤ 郵送料(講師礼状2通送付)
広報費	7,242	8,541	1,299	⑥ ラジオPR広告宣伝費 CM ¥776.5×10本=¥8,541(税込)
事業費	0	11,770	11,770	⑦ ZOOMウェビナー使用料
支出計	25,000	25,000	0	

収支合計

	収入計	支出計	差異
予算	25,000	25,000	0
決算	25,000	25,000	0

※別添：各種領収書等 ①～⑦

●アンケート結果

※別紙、「参加者アンケート結果」を参照。

●総括（まとめ）

今回の講演会では、移植の現状を知り、誤解した認識を解きつつ、社会が成し得る支援が様々にあることを共有しました。

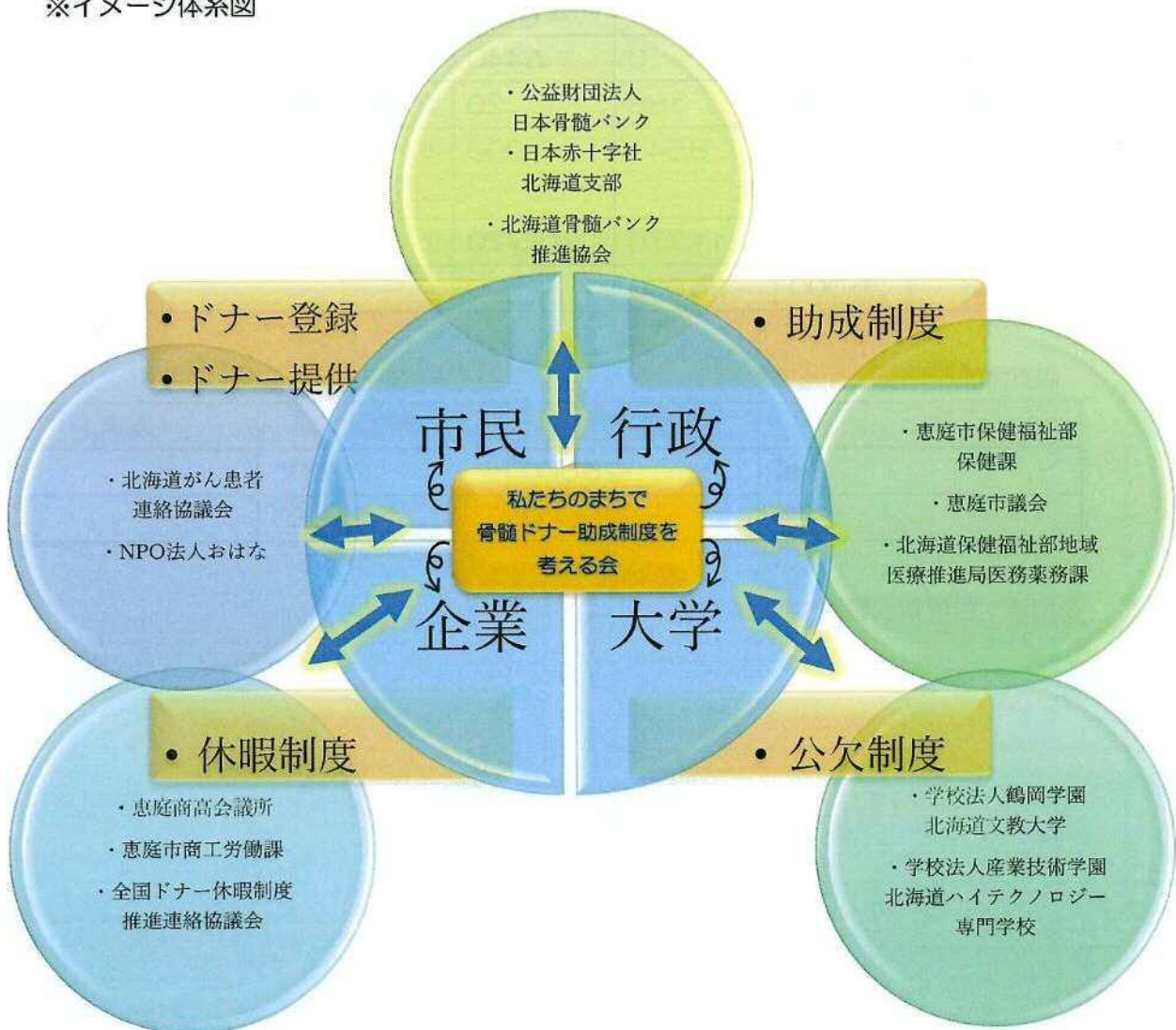
本会としては、骨髄ドナー助成制度の必要性をあらたにするとともに、職場や教育現場への呼び掛け等、患者とドナーを支援するさらなる取り組みの道筋を考える機会となりました。

ご講演いただいた小島様、河原田様、会の運営にご助言頂いた皆様、そして参加された多くの皆様に感謝申し上げ、今後の活動に繋げてまいります。

●今後の展望

関係各機関と連携しながら、各種啓発等による意識醸成や行動喚起に加え、それぞれの制度導入等に向けて、双方向での情報受発信と、働きかけを継続的に実施してまいります。

※イメージ体系図

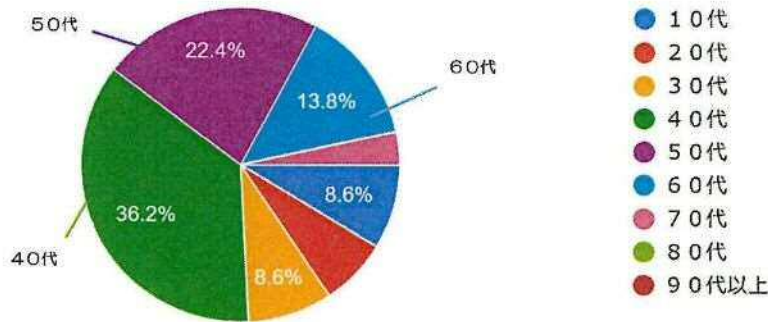


参加者アンケート結果

アンケート回収率：81.6% (58/71) ※参加者75名の内、登壇者4名を除く、71名中58名が回答。

年齢（年代）を教えてください

58件の回答



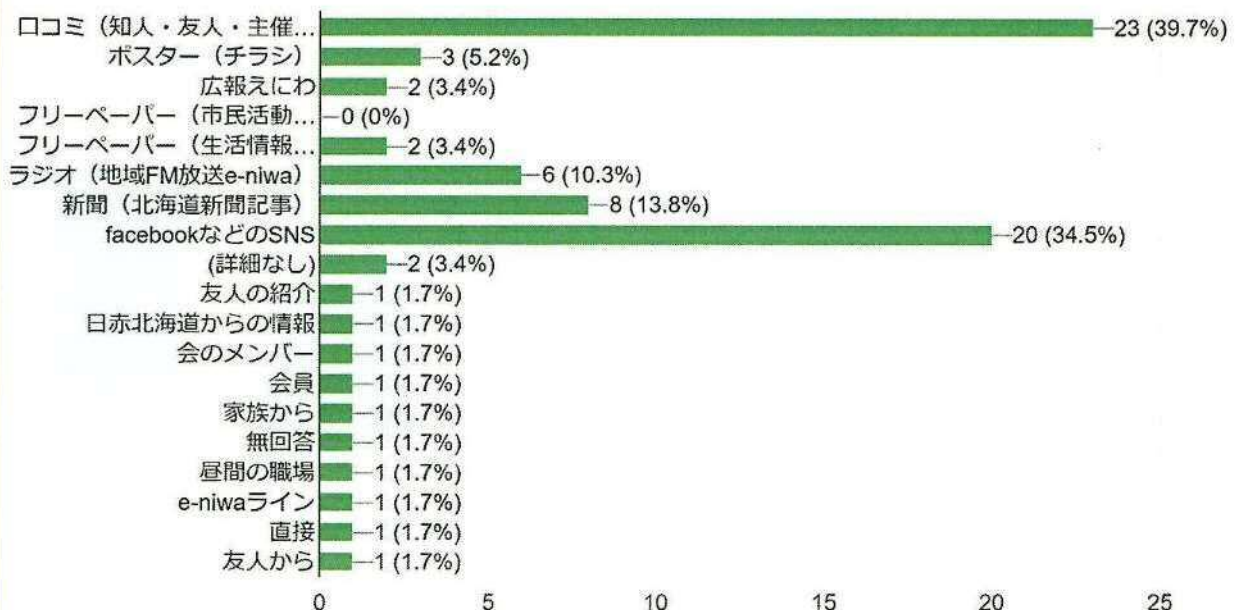
職業を教えてください。（任意）

46件の回答



本勉強会を知ったきっかけを教えてください。（複数選択可）

58件の回答



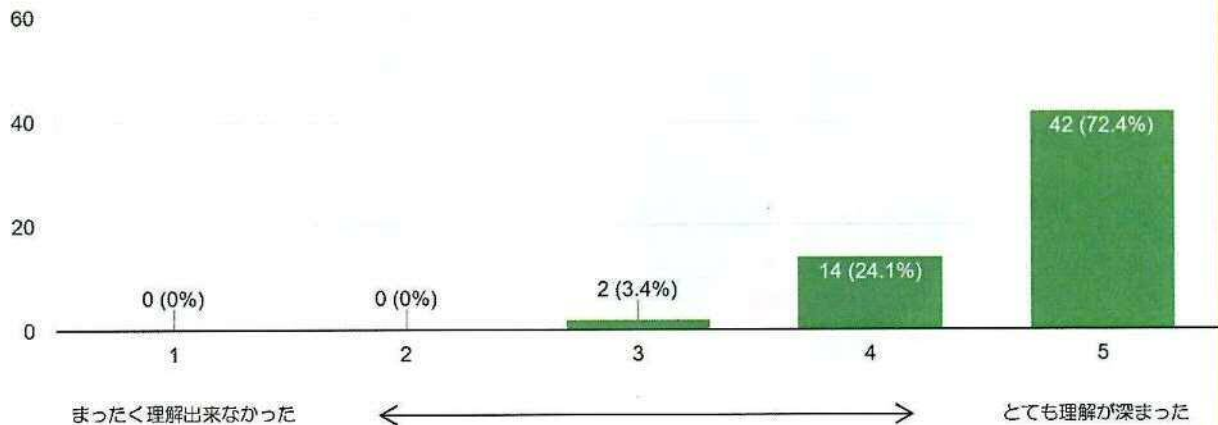
参加者を年代別で見ると、40代が36.2%と最も高く、次いで50代が22.4%、60代が13.8%、10代と30代が8.6%、それ以外は、20代、70代の参加構成となりました。上記、設問3の参加動機から、主催者である、会のメンバーと関係性が近い世代の参加者が多かった点に加え、現状のドナー登録者数（全国の平均年齢）の最も高い40代、50代と比例していることから、潜在的に関心の高い年代の参加比率が高かったことと推察します。

また、参加者を職業別で見ると、最も多いのが、15.2%の学生（高校生を含めると19.5%）で、次いで、13%の会社員（契約・パートを含めると19.5%）、公務員、10.9%の自営業、8.7%の主婦、その他、という結果となりました。会のメンバーに学生がいたことや、メンバーの家族として、学生の参加が多くなったと考えます。また、直接的にお声がけをした、恵庭市の職員さんや、市議会議員さんらにも多く参加いただくことができました。

参加動機として、最も高かったのは、主催者を含む知人・友人からの口コミ（直接的声掛け）で、次いでFacebook（SNS）や、新聞、ラジオ、タウン情報誌、広報等の媒体接触も相乗的な効果があったものと考察します。

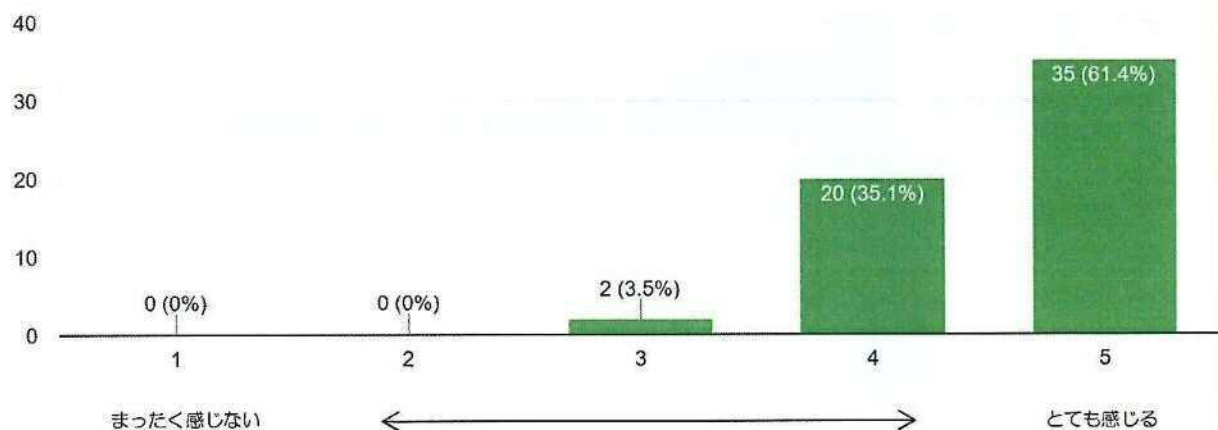
骨髄ドナーと患者を取り巻く現状や課題について理解が深まりましたか？

58件の回答



各制度が整備されることで、ドナー登録者の増加や...グ以降の移植の実現性が高まると感じましたか？

57件の回答



勉強会全体についてのご意見感想フィードバックなど。(34件の回答)

・北海道骨髄バンク推進協会のホームページも参考にしてください。

・骨髄ドナーや骨髄移植について理解が深まりました。ありがとうございました。

・業務と並行しながらの参加だった為、途中離席してしまい資料などが見れませんでした。可能な限り、資料の公開（または参考となるWEBサイトの紹介）などをしていただくと大変嬉しいです。具体的なお話を伺うことが出来て、とても良い勉強会でした。

・三浦さん、白崎さん、このような機会をいただき、ありがとうございました。初めて知ることで分かりました。他人事とは思わず、ささやかながら、自分のできることをしていきたいと強く思いました。本当にありがとうございました。

・移植コーディネーターをしておりますが、私も講演会等で北海道での骨髄ドナー助成制度の導入を訴え続けていたので、心から賛同いたします。私にももっと出来ることがあれば協力したいと思っておりますので、白崎さん、病院でいつでも声をかけてください。本日はとても素晴らしい勉強会でした。ご準備等お疲れ様でした。ありがとうございました。

・骨髄バンクに登録をして、実際に提供する事が今の社会一般にはハードルの高い事です。でもそれを解消するのも私達自身にあります。そう感じた勉強会でした。

・制度があればよいとは思いましたが、他の自治体では利用実績が年間一桁である制度を新しく導入してもらえるだろうか…？と昨今の自治体の財政状況を鑑みて不安に思いました。あればいい、でも、ない袖は振れないかもしれない。恵庭が北海道で制度導入第一号の自治体になれば格好いいのだけど、と感じました。貴重なお話をありがとうございました。

・お疲れ様でした。共生社会に向けた取り組みを皆が意識することが大事ですね。次段階に向けて…作戦会議をしましょう！

・大変勉強になりました。「ドナー登録」という言葉はよく聞きますし、必要としている方がいるのも理解していたのですが、「誰かがどこかで登録しているんだろう」という感じで自分の行動にはつながりませんでした。それはやはり「ドナー登録は怖い・痛い・危険」というイメージがあったからです。今回のお話を聞き、自分も誰かの命を救えるかもしれないと、自分事として考えられるようになりました。とはいえ、私は若いころに2度献血をして、2度ともめまい・吐き気・悪寒がひどくて倒れてしまった経験があり、それ以降怖くて献血ができないので、ドナー登録もやはり躊躇してしまいますが、「ドナー登録は怖い・痛い・危険」ではないということを伝えることはできます。体質的にドナー登録はできなくても、私にもできることがあるとわかったので、参加して本当に良かったです。また勉強会に参加したいです。応援しています！本日はありがとうございました。

ドナーの方のお話しにインパクトがありました。提供を受けた方のお手紙があるのですね。点滴で冷たい骨髄がからだに入ってきたときに、これで生きられると思われたそうですね。貴重なお話し、ありがとうございました。

・お疲れ様でした。■■■です。

・お疲れ様でした。●●です。オンラインも大成功でしたね。きっと会場も大成功だったと想像しています

・もう少し、制度に関するお話が多いものと思ってました。特に、河原田様のお話は、ためになりました。ドナー適合者の割合から考えても、適合は一度あるかないか、くらいと思っていたので、これまでに3度適合されているというお話に驚きました。断念せざるを得ない経験と、移植された経験どちらもある方だからこそその話の深さに心を掴まれた感じがしました。この制度には、企業側の協力も伴って初めて、ドナー適合者が『提供する』と決心できるものなんだな。と考えさせられました。私の弟が子供のころ白血病でなくなりましたが、治療中親から聞いていた兄弟だと4

人に1人の可能性があるから、私と妹に検査だけしてほしいの。と 実際のところ適合しなかったのですが、親からしたら、その望みというのはかなり期待していたんでしょね、当時はそこまで考えてはいなかったですが この勉強会のお話を通して、改めて親、家族などの事を考えさせられました。ドナー登録を若い方がどんどん登録できるような世の中になるといいですよ 献血バスで、登録ができることにも愕きました。 どれかひとつだけでも、足りない制度なんだと感じたので、深く知らなくてもよいから広く広まる事が大事なのかもしれませんね すみません 長文になってしまいましたが、すこし書かせていただきました。お手伝いできず、皆さんに頼ってばかりでした、ありがとうございます

・今回ドナーについてやドナー助成制度について分かりましたが、具体的にどのように自治体と関わり実現していくのかが見えなかったので、第2弾をやって欲しいです。若い人達に伝えていきたいと思いました。

・今後も、このような勉強会などで個人や企業、団体が具体的に理解を深めていくことはとても必要だと実感しました。

・すみません、参加できなかった者です。友人で骨髄提供経験のある方がおり、ドナー側は提供したらすぐ元の生活に復帰できるわけではないということを知っていました。やはり体に負担がかかるため、数日は仕事を休んで寝て過ごさなければならなかったとのことで、提供する側も簡単なことではないということを知った上で、行政等の手厚いサポート体制が約束されて安心して登録し、提供できる体制を構築していくことが今後重要だと考えております。

・私のまわりにも白血病等で闘病中の方や亡くなった方々もいて、とても勉強になりました。助成制度のしくみが早く北海道や各自治体にできると良いと思います。

・とてもわかりやすく興味を持つ内容でした。ドナー登録をできるチャンスがあったら是非!!

・白崎さんが動いていて以前と変わらず美しいのを見られたのが一番うれしかったです。生きている間に誰かの役に立てるのはうれしいことなので、年齢制限まであと数年ですが登録したいと思いました。

・なかなか自分で考えることが少ないお話をきくことができとても貴重な時間でした。このようなお話を身近に感じて、もしもの時、上手く対応していきたいと感じました。

・ドナーと移植者の間で最低限でも関わりがあることも一つの魅力であると感じました。また、子育て世代の人や自営業の人といった様々な人のニーズに答えられるものになるように願っています。頑張ってください。

・貴重なお話でした。助成制度について研究したいと思います!

・たくさんの方々がドナー登録をしやすい環境が整うと良いなあ…と思います。応援しています。

・1年ぶりにお元気そうな白崎さんを拜見でき感動しました。他のたくさん困っている方々を助けるために大学で何ができるか考えました。国際学部の学生にもしてもらいかかわらせたいと思いました。

・骨髄バンクに登録したいと思いましたが、治療でプラセンタ投与したことがあり献血も出来ませんので登録出来るか確認しなければと思います。助成制度を導入することも大事ですがドナーの検査方法や場所をもっと周知することが大切なのは…と感じました。

・夫婦で登録していますが、私は今、停止しています。身体が元気になったら復活したいですし、多くの方が関心をもってくれるようになれば良いなと思います。制度が充実しますように!

・とても勉強になりました。

・具体的なお話で理解が深まりました。マッチしたあと、時間的な理由から提供まで至らなかったですが、次回があれば調整をしっかりとって提供までできればと思います。助成制度だけでなく、ドナー登録自体のことを浸透させていく必要があると感じました。

・自分は登録できる年れいではないのがとても残念でしたが我が子、親セキ、自分の周りの人に今日勉強したことをつたえて、若い人達にドナー登録してもらいたいと思った。大学や高校で勉強する機会があればいいと思う。助成制度を恵庭でできてほしいと強く感じた。

・ドナー提供の環境づくりにおいて、助成制度や休暇制度などが必要と感じた

・ドナー登録をしても休みが取れない、経済的に難しいという理由で断念するのはとてももったいないと思いました。制度ができるの良いと感じました。職場で登録会があるのはとても良いと思います。周りにも登録してもらえるように話したいと思います。貴重なお話ありがとうございました。

・先ずは、白崎さんが病気から復帰したことが大変嬉しい。そしてこの様な会を立ち上げた事素晴らしいです。今後とも微力ながら応援します。恵庭市の助成制度つながります様。やはり経験者の河原田さんの話に心打たれました。感動!

・初めて聞くお話でした。皆、知らないと思うので、ドナー登録の啓蒙活動や学校教育の中でどんどん訴えていくことが大切と思いました。私の周りにも広げていきたいと思います。助成制度は国会議員や道にガンバってもらいたい。署名運動など協力します。

・本日は、参加させていただきありがとうございました。実は、私の青年会議所時代の友人が昨年11月に、急性リンパ性白血病を発症しました。友人は、妹さんがドナー適合されたということで、懸命に治療されましたが、今年7月に幼い子供さんを残して、47歳の若さで亡くなりました。同世代として、本日の勉強会は他人事ではなく、また、助成制度が全国700以上あるにも関わらず、北海道には一つもないということで大変ショックでした。今後、制度についてや、恵庭市でこういった取り組みが出来るのか、学んでいきたいと思います。本日はありがとうございました。

・ネット環境を繋げる事が出来ませんでした。申し訳ありません。今後の発展、活躍をお祈りし、今後も応援します。

以上